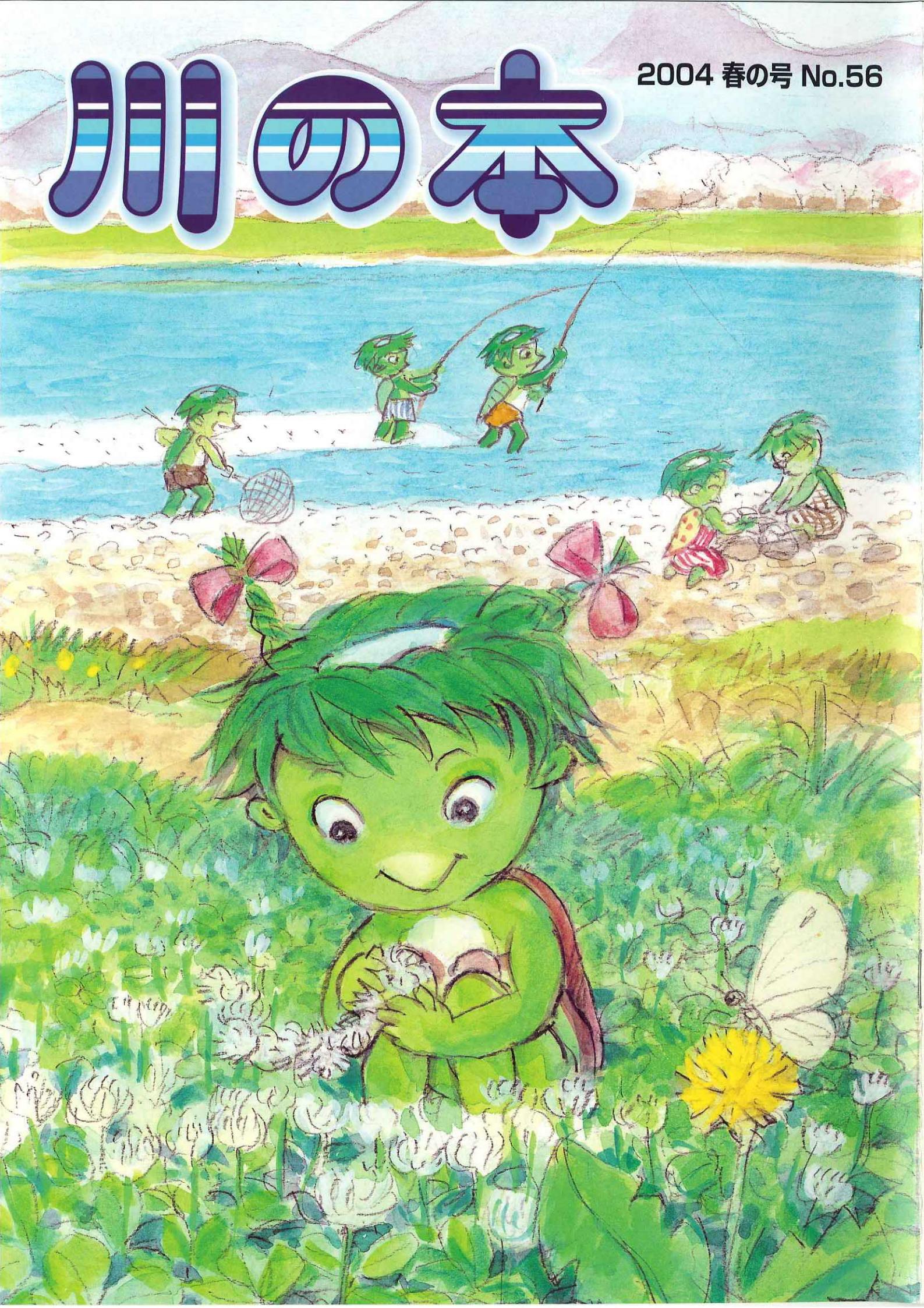
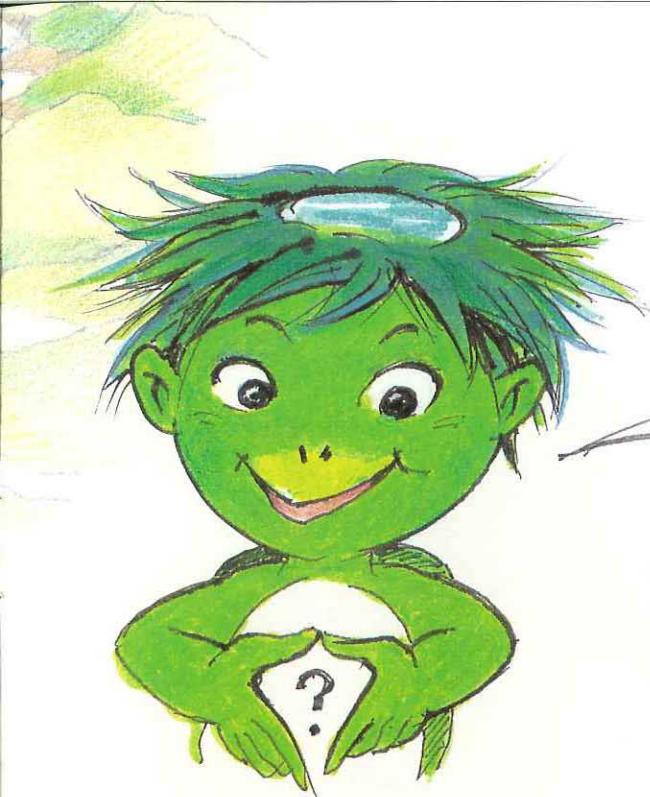


川の本

2004 春の号 No.56



KAPPA no GAKKO



さんかくす 三角州って なあんだ？

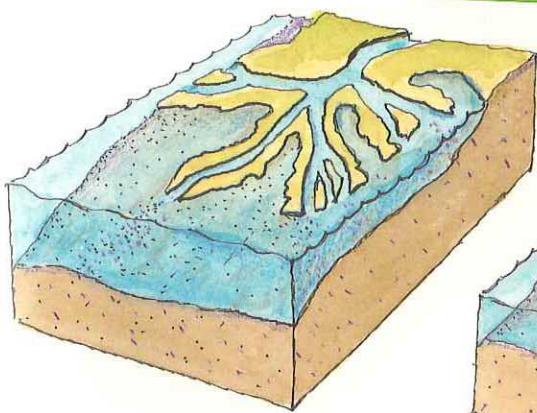
- 川の水は、上流から下流へと土砂を運びだしています。特に、洪水のときには、たくさん運びだします。重たい石などは川底にのこしながら、下流にいくほど、こまかなく砂や泥(どろ)になります。

●その砂や泥は、川が海や湖にでたあたりにつもりはじめ、長い年月をかけて新しい陸地をつくりだします。

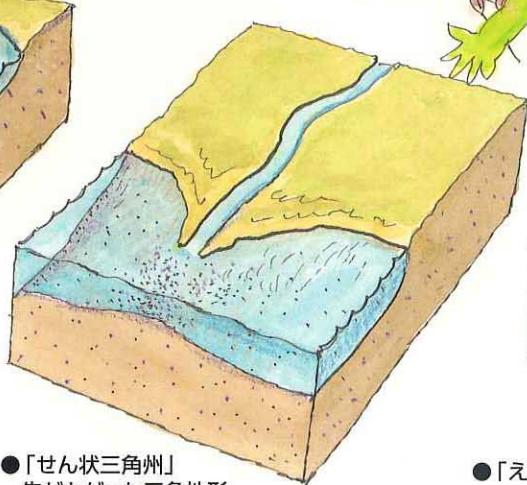
三角州は海がわりと浅く
波がおだやかなところに
できやすい



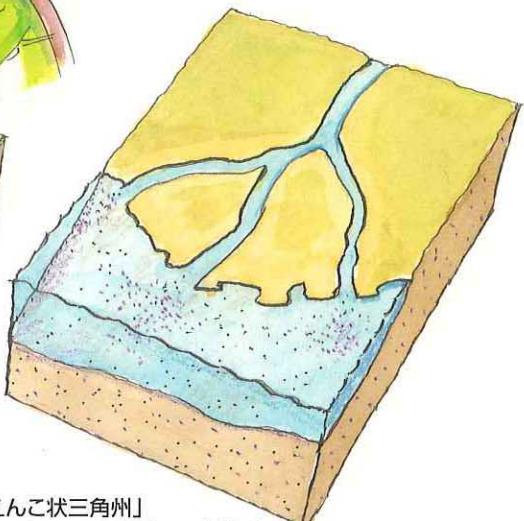
三角州(デルタ)の
代表的な三つの
地形だよ



- 「とりあし状三角州」
島の足あととの形によくした地形



●「せん状三角州」 先がとがった三角地形



●「えんこ状三角州」

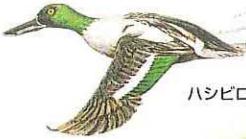
河口ふきんが、だいすきな生きものたち



トビ



サギ



ハシビロガモ



ホオジロガモ



カモメ



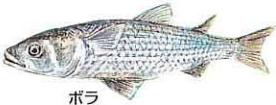
シギ



オオヨシキリ



ハゼ



ボラ



ナマズ



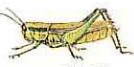
フナ



コイ



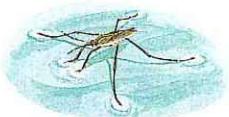
ウナギ



イナゴ



トンボ



アメンボ



クビキリギス



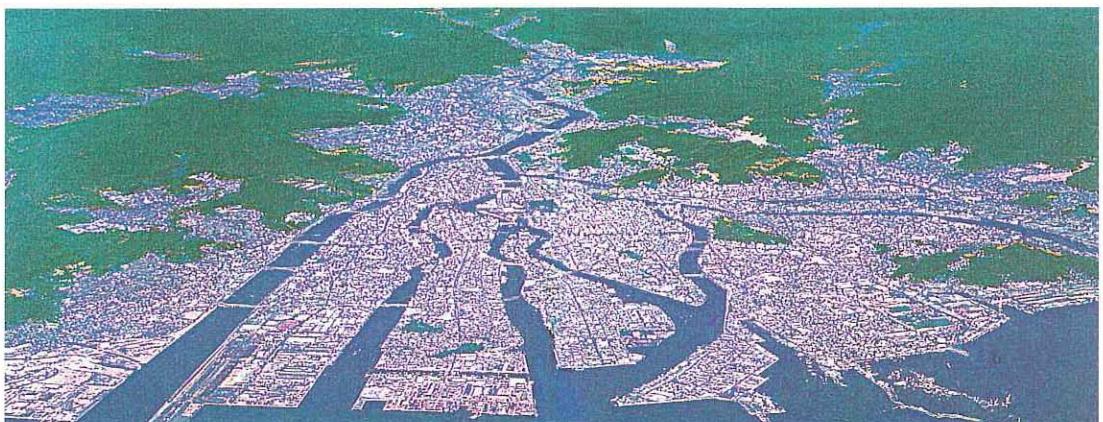
トノサマバッタ



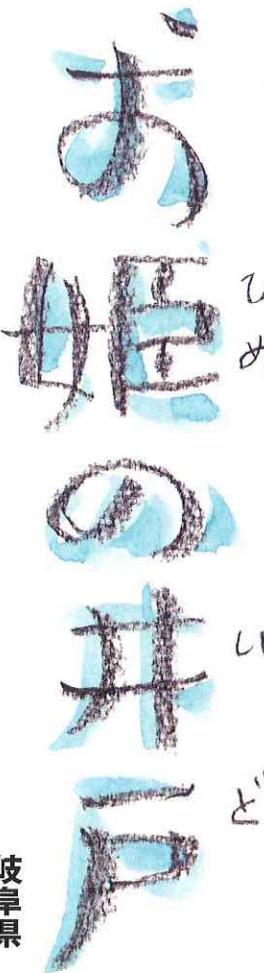
ケラ



ミズスマシ



写真是現在の広島市です。太田川がつくった三角州の上に、むかし、お城がたち、城下町ができ、土地がせいびされて、しだいに大きな町になりました。



岐阜県 長良川

むかしから、長良川（ながらがわ）に、大巻（おおまき）と、よばれるところがあつてな、そこは、上流からの激流（げきりゅう）が大岩（おおいわ）にぶつかって、うずをまく深い淵（ふち）になつておったそうな。淵の底には、龍神（りゅうじん）さまが住んでいて、大岩のまん中のくぼみには、龍神のお姫（ひめ）さまが住んでいたると信じられていた。その大岩のくぼみを村人たちは「お姫の井戸」と、よんでもおつた。

かれこれ三百年ほども、むかしのこじりや。このあたりが、ひどい田ぞりづきに、なやまされたことがあつてな、たよりの長良川の水も少なくなつて、田や畑に水を引くこともできない、作物はカラカラに、かれはじめたんじゃ。村中で雨乞（あまごい）の祈りをなんどさげても、ひとつぶの雨もふらない。

「このままじゃ村はほろびてしまうがな」

村の庄屋の五兵衛（ごへえ）は頭をかかえてなやんでおつたが、はたと頭にひらめいたことがあつた。

「どうじゃ、龍神さまをおこらせれば、きっと雨がふるぞえ」

その夜おそらく、なにやら大きな荷物（にもつ）をかついだ五兵衛は、一人でお姫の井戸にむかつたんじゃ。お姫の井戸には、いつも、きれいな水がたたえられていて、ここをよじすと龍神さまのバチがあたるからと、だれも近づかなかつたといひうじやよ。しかし五兵衛はやつてきた。もつてきたのは、きたないゴミの山じゃつた。そして、ことあるごとに、お姫の井戸のまわりで、そのゴミを、もやしあげたんじゃ。お姫の井戸は、くさいけむりで、つしまれてしまつたがな。そのくさいけむりは、天高くあがつていつた。



すると、またたく間に黒い雲が、もくもくとわきだし、おおつぶの雨が、ぱたぱたと音をたててふりだしてきた。

「やつだぞい、わしの思つたとおりじゃ。龍神さまがおひりだしたわい」と五兵衛はよろこんだ。雨音に目がさめた村人たちも外にとびだしてきた

「雨じや雨じや、ありがたや」と大さわぎじゃ。

ところが、よろこんだのも、つかにまじやつた。雨はしだいにはげしくなり、三日三晩すぎても、やむむむむか、ますますはげしくなってきた。たたきつけのような大雨は、村や烟をみるみる水びたしにしていく。五兵衛はおそろしくなってきた。まさか、ここまで龍神さまが、おこるとは思つても見なかつたからじや。

「龍神さま、わしが、わるいじやござました、どうかおゆるじを」

五兵衛は天にむかつて手をあわせ、ゆるしをこうたがおそかつた。とうとう長良川の土手がきれ、どりとあふれだした水が、村や田畠におそいかつてきたんじや。人々は命からがら近くの山へこびのびたが、家や烟は、めちゃめちゃにつぶされてしもうたんじや。これで龍神さまのいかりも、おさまつたのか、まもなく雨はやみ、水も引いた。

やつとのことで村人たちも山からかえってきたが、じくじくさがしても五兵衛だけが見つからんのじや。なんでも、ふりしきる雨の中を、ふりふりとお姫の井戸の方へあるいていく五兵衛を見たものがいたらしいが、どうやら、それが五兵衛のさいごのすがただつたようじや。

お姫の井戸と長良川

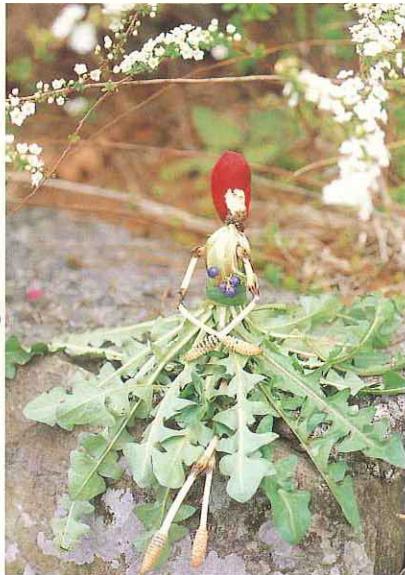
むかしから人々は、洪水とたたかいながらも、川となかよくつきあうために、努力をつみかねてきました。そうした人々と長良川との、つながりの中からのお話は生まれました。長良川は全長六六キロメートル。木曽川（きそがわ）と揖斐川（いびがわ）に、はさまれるようにして伊勢湾に流れでています。この三つの川は、むかし下流部で、わかれたり、あわさつたり、入りみだれて流れ、たびたび洪水をおこしてしまった。そのため三つの川をまとめて木曽三川と呼びならわされています。長良川が岐阜県の美濃橋を通るあたりに今もお姫の井戸があります。現在は流れもおだやかで、うずをまく淵もありません。毎年八月一日には、地元の人たちが、お姫の井戸の大岩に、しめなわをはつて、水神さまをまつり、夜には、すぐ近くで花火大会がおこなわれています。



川辺の草花とあそぶ

タンポポのお人形

川辺で、咲きはじめたタンポポやツクシをつかって
お人形さんを作つてみよう



春を見つけに川辺にいってみましよう。あたたかな、ひざしをあびて、
あちらこちらに新しい生命がめざめます。土手には、タンポポやツクシが顔をだし、
ヤナギは赤いさやをぬいで銀色の芽をふくらましています。
それらの植物をつかつて、たのしい造形遊びをしてみましよう。

写真・指導は、山田辰美先生(富士常葉大学助教授／里の学校 校長)

草すもう

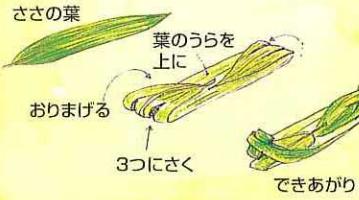
ささ舟きょうそうだ

おし花・おし葉

電話帳などあつい本



ささ舟のつくりかた



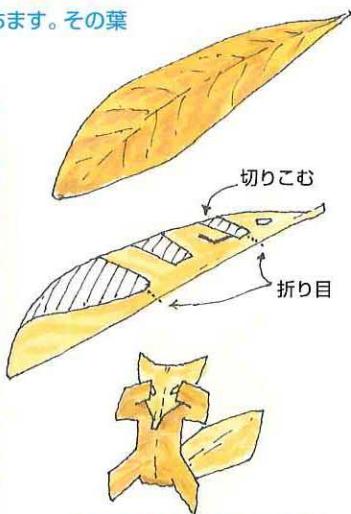
はっぽのキツネ

川辺には、鳥がおととしていた、たねからそだった木がよく見られます。ビワの木もそのひとつです。ビワの大きな葉は春に色づいておちます。その葉をつかってキツネができます。

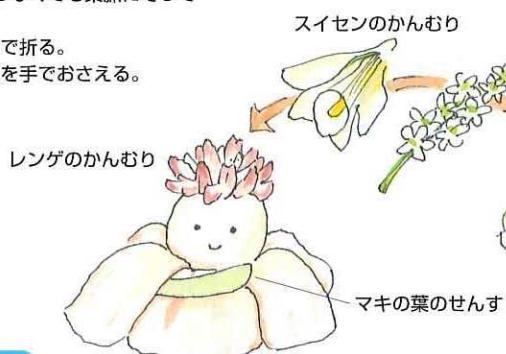


●2つおって図のように切る。
(はさみをつかわなくても葉脈にそって手でちぎる)

- 首と尾のつけねで折る。
- 折りかえした頭を手でおさえる。

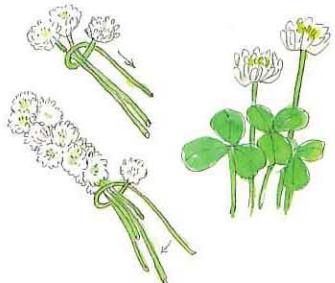


キツネはないでいるのかな?
それとも かくれんぼしているのかな?



かんむり

クローバーやレンゲを図のようにあんでいくと
すてきな花のくびかざりや、かんむりができる



ツバキのおひなさま

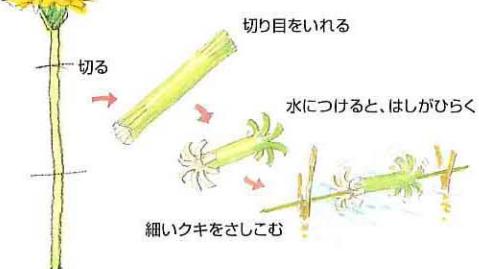
川辺や庭に、いちばんはじめに咲いたのはツバキの花。春のおとずれを、お祝しておひなさまを作つてみよう。八重咲きのツバキ（オトメツバキなど）のつぼみをつかつて、かわいいおひなさまができます。



- かさなりあった花びらを1枚ずつやさしくめくる。
- 6~10枚ほどめくると十二ひとえのような着物になる。
- つめや小枝の先を花びらにおしつけて目や口をえがく。
- 好みの花や葉をあしらつて、かんざし、かんむり、えぼし、せんすなどに見立てると完成。



たんぽぽの水車



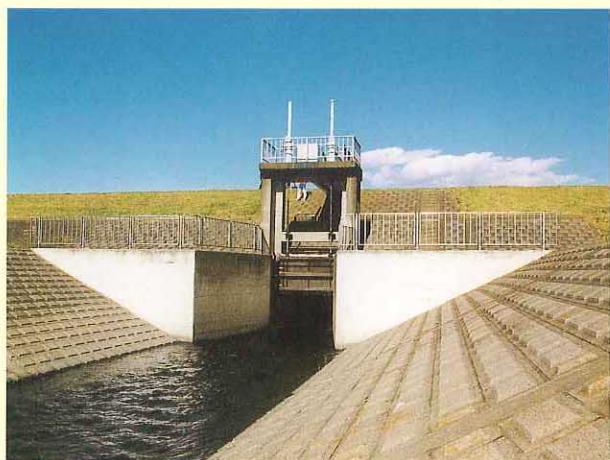
これなんだ?

樋管（樋門）

堤防を歩いていると、写真のような施設をよく見かけます。中をのぞいて見ると、堤防の中はトンネルのような水路で、その出口にはゲートがついています。

このように堤防の中を通る水路の施設を、樋管（樋門）といいます。樋管と樋門の区別は、比較的小さいものを樋管、大きいものを樋門といわれています。

おもな目的は、用水の取り入れや、内水（町にふつた雨水、田んぼや家庭で使つた水など）の排除です。また、大雨がふつて本川の水かさがましたとき、ゲートをしめて水のぎやく流をふせぎ、洪水からまもります。



川の仲間たち

どろんこ大好き干潟（ひがた）の人気者 トビハゼ

ぼくはトビハゼだ。かわいい顔してるって、なかなかの人気者なんだぞ。ところで、ぼくは魚なんだが、ちよつとほかの魚とはちがうんだ。

河口あたりにできる干潟（ひがた）って知ってるだろ、潮の満ち引きで、水にもぐったり、すがたをあらわしたりする、どろ底の湿地帯（しちたい）だよ。そこに、ぼくはすんでいる。

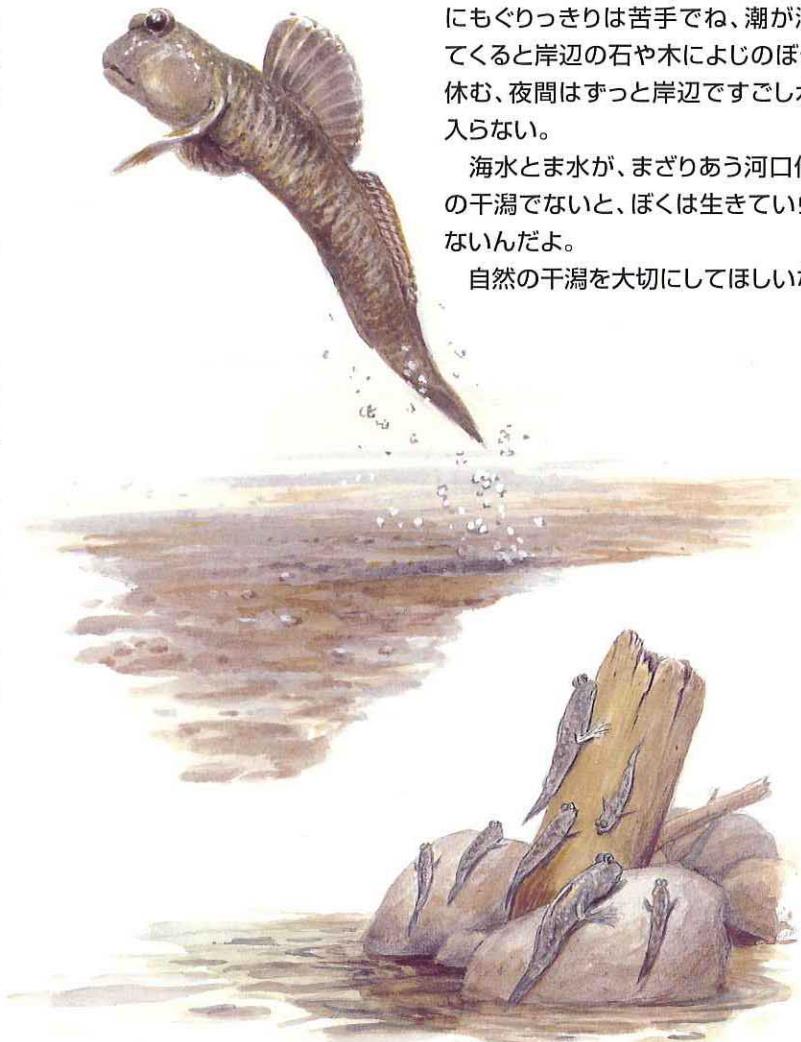
海水が引いて、どろ底があらわれると、ぼくの天下さ。まるで前足のように発達した胸ビレでドロンコの上を自由にはいまわって、ゴカイなどの小動物や小さな藻（も）などのエサをさがしまわることができるんだ。どろの上でジャンプすることだってできるんだぞ。

なんたって、ぼくの体は、ひふ呼吸ができるから一日のほとんどを空気中ですごせるんだよ。だから、水の中

にもぐりつきりは苦手でね、潮が満ちてくると岸辺の石や木によじのぼって休む、夜間はずっと岸辺でごし水に入らない。

海水とま水が、まざりあう河口付近の干潟でないと、ぼくは生きていられないんだよ。

自然の干潟を大切にしてほしいな。



トビハゼ（ハゼ科トビハゼ属）

全長 約10cm

分布 東京以西の太平洋岸各地

瀬戸内海沿岸



財團法人 河川環境管理財團

Foundation for River & Watershed Environment Management

(〒104-0042) 東京都中央区入船1丁目9番12号
TEL (03)3297-2600 (代表) <http://www.kasen.or.jp>